

整理作業でみつけた「なるほど」な情報を、一早くご紹介！

この資料「ここがみどころ、ここがツボ!!」-整理作業の最前線から「蔵出し」最新情報/ File.001-

博物館には「収蔵資料整理」とよばれる、資料を世に出すにあたり基礎となり不可欠な作業（点検・ナンバリング・収納・補修など）があります。この作業では、規模の大小はあれ、日々「新（あるいは再）発見」と「感動」と「謎や問いかけ」があり興味が尽きない一方、コツコツと根気強くやるしかない地味で辛く大変な作業です。

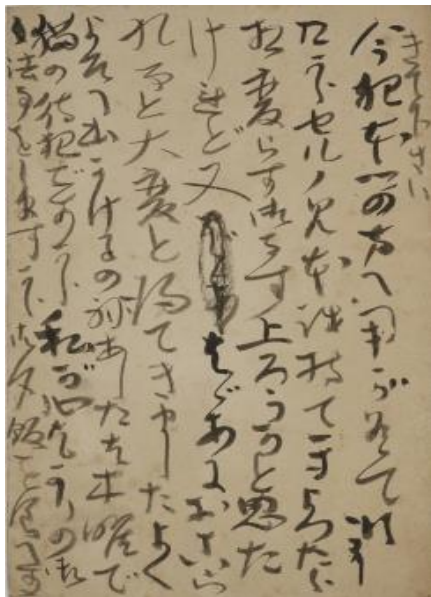
ここでは、そんな整理作業の過程で得られた資料にまつわる「なるほど」で「ほほう」な情報をご紹介して参りますので、皆さんも情報を通じてこの大事な作業の「協働者」になって頂けると幸いです。

というわけで、今回皆さんにご紹介したい新（再）発見資料はコレです！

■資料名 : 夏目鏡子発小宮宛書簡（はがき）「猫の法事」案内通知（小宮豊隆資料 [追加分] から）

■資料のひとことPR: 漱石は猫の葬式だけでなく、法事も造墓もちゃんとやるケアの達人だった！ことが分かる資料

■資料写真 : 該当ハガキ裏面（通信欄）



きて下さい
今夜本郷の方へ用を可有って行まし
た可らセルの見本越持て一寸よつたら
相変わらす御るす上ろうかと思た
け連ど又者いあにお古ら
れると大変と帰つてきましたよ
よそへ出かけるの祢あした木曜で
猫の待夜です可ら私可心者可りの御
法事をします可ら御夕飯を食へずに



◀夏目鏡子発小宮宛書簡（はがき）
上は同文翻刻

▲桜の木の下の小さな墓標には漱石が
「この下に稲妻起る宵あらん」と弔句
を認めた（イメージ/イラストは担当者）

■資料データ File

- 形状/材質/法量 : ハガキ（旧逓信省発行官製はがき・1 銭5厘/中厚紙/タテ 14cm*ヨコ 9cm）
- 制作年代/時代背景 : 大正元（1912）年 9月 11日/明治が終わり、漱石は『こころ』を着想していた
- 注目ポイント : 鏡子夫人が「猫の法事」を呼びかけたハガキは、今回の作業ではじめて発見されたものです

■資料メモ

漱石のデビュー作にしてヒット作『吾輩は猫である』のモデルとなった夏目家の猫は当初、招かれざる客として特に猫嫌いの鏡子夫人から目の敵にされていました。しかし漱石の「置いてやったらいいじゃないか」と、夏目家出入りの按摩さんの「この猫は福猫ですよ」のひとことで一転「アイドル」となり（それでも名前がつくことはなかった）、俄然存在感を増してゆきます。

猫が福猫だったことは、その後の漱石作品のヒットで証明されましたが、その猫も明治 44 年 9月 13日に死去。夏目家ではこれを悼み、漱石が猫の訃報を出したことは有名ですが、その後も本資料にあるように法事を営み、最後には造墓・弔句・供養塔（猫塚）を造るなど、猫への愛情と感謝が徹底していたことが分かります。

■整理担当者のつがやき

猫嫌いだった鏡子夫人が、このハガキで分かるように、最後は猫の法事の施主（主催者）になっています。供養される猫が「人間とはこんなものなのデアル」と思ったのかどうか、できるものなら漱石に「猫」の続編の中で語らせてもらいたかったです。

注) 1. 本文作成にあたっては、主に以下の資料を参考とさせていただきます。

- 夏目鏡子述・松岡謙筆録『漱石の思い出』文芸春秋社刊（文芸文庫） 1994 年
 - 香日ゆら著『先生と僕 -夏目漱石を囲む人々 青春篇・作家編-』河出書房新社刊 2018 年
 - 新宿区文化産業観光部文化観光課編『ガイドブック 新宿区立漱石山房記念館』新宿区刊 平成 29 年
2. 本文の情報は令和 3 年 8 月現在のものです。その後の究明や新資料の発見により見解が改められることもありますので読みおき下さい。
3. 本書に掲載の写真や文章を無断で転載することは禁じられています。